

教科	地歴	科目	地理A			単位数	2
学科	普通科	履修学年	2	コース	理系	必修・選択	必修
教科書	『新地理A』(帝国書院)		『新詳高等地図』(帝国書院)				
副教材等	『新詳地理資料 COMPLETE 2019』(帝国書院) 『2019 データブック・オブ・ザ・ワールド』(二宮書店) 『新地理の研究』(啓隆社)						

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
指導の重点	現代の世界は、「グローバル化」「国際化」といわれるほど、さまざまな国や地域との交流がさかんになり、お互いの国や地域について理解することが重要な時代になっている。地理Aではそれぞれの国や地域での生活・文化を概観し、課題を解決する力を養い、国際人として生きる力を身につけられるように指導をする。また、センター試験・国公立私立大入試に対応できる力を養うため、問題演習等も必要に応じて実施する。			
学習計画	学期(時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1学期(20)	1部 私たちの地球をみつめる 1章 球面上の世界と地域環境 2章 結びつく現代世界 選択章. 身近な地域の国際化の進展	地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して、地球表面の大陸と海洋の形状や各国の位置関係、方位、時差及び日本の位置と領域などについてとらえさせる。 交通・通信の発達、人や物の国際間の移動などに関する資料の収集、分析などを通して、諸地域間の相対的な位置、距離関係が変化し、人々の地理的視野が拡大するとともに国家間の結合や国際貿易などが活発化、複雑化していることをとらえさせる。 生活圏、行動圏に見られる世界と結びつく諸事象の地域調査やその結果の地図化などを通して、身近な地域の国際化の進展や日本と世界との結び付きの様子をとらえさせる	提出物 授業の取り組み 定期テスト
	2学期(24)	2部 さまざまな地域の生活と環境 1章 人間生活をとり巻く環境 2章 世界の諸地域の生活・文化 選択章 近隣諸国の生活・文化と日本	世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けて追究し、生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、異文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。 近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	提出物 授業の取り組み 定期テスト

	3 学期 (20)	2 章 世界の諸地域の 生活・文化 選択章 近隣諸国の生活・ 文化と日本	2 学期よりの継続	提出物 授業の取り組み 定期テスト
計 6 4 時間 (5 5 分授業)				
評価規準と 評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、追究した過程や結果を適切に表現する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
	[評価方法] 以上の観点をふまえ、授業の取り組み（授業態度・学習活動への参加状況など）・課題の内容や提出状況・定期考査などから、総合的に評価する。			
学習の ポイント	地理 A は地名などを表面的に暗記する科目ではない。それぞれの国や地域がどのような環境におかれ、どのような文化をもち、どのような生活をしているのか、そしてそれらから見いだせる課題について考え、理解しようとするのが重要である。また、地図帳をいつでも開き、日々のニュース等に関心をもって現代の世界に大きなアンテナを張り、さまざまな知識や情報を積極的に得ようとする姿勢も大切である。			